

2022 年度（令和 4 年度）

シラバス

理学療法学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	薬理学		担当教員	佐藤 公彦		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について学ぶ。あわせて、薬物の副作用やその多剤服用(ポリファーマシー)症状についても学ぶ。					
達成目標	①薬物の基本的事項について理解する。 ②対象疾患に対する薬物療法について理解する。 ③薬物の副作用と多剤服用(ポリファーマシー)症状について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	薬理学学習の意義を理解する	事前:テキストの関連内容の予習			1
	2	薬物の作用機序を理解する。薬物の標的・生理活性物質、薬物の用量と作用の関係を理解する	事前:テキストの関連内容の予習			1
	3	薬物の相互作用(薬物間、薬物と食品等)、剤型の違い、リスクマネージメント、薬物依存と耐性について理解する	事前:テキストの関連内容の予習			1
	4	交感神経に作用する薬物 α 、 β 受容体への作動薬と遮断薬	事後:薬物の概要の復習			1
	5	副交感神経に作用する薬物 コリン作動薬と抗コリン薬	事後: α 、 β 受容体への作動薬と遮断薬			1
	6	中枢神経系に作用する薬物① 鎮痛薬 麻酔薬 睡眠薬	事後:コリン作動薬と抗コリン薬の復習			1
	7	中枢神経系に作用する薬物② 抗不安薬 てんかん薬 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 パーキンソン病薬 認知症薬	事後:中枢神経系に作用する薬物の復習①			1
	8	循環器系に作用する薬物① 昇圧薬 強心薬 抗狭心症薬 β 遮断薬 Ca拮抗薬	事後:中枢神経系に作用する薬物の復習②			1
	9	循環器系に作用する薬物② 抗不整脈薬 利尿剤 その他降圧薬 抗血栓薬	事後:循環器系用薬の復習①			1
	10	呼吸器に作用する薬物 消化器系に作用する薬物	事後:循環器系用薬の復習②			1
	11	代謝・内分泌系に作用する薬物 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症 甲状腺疾患 副腎皮質ホルモンなど	事後:呼吸器・消化器系用薬の復習			1
	12	抗菌薬 抗真菌薬 消毒薬	事後:代謝・内分泌系薬用薬の復習			1
	13	運動器系疾患に対する薬物療法①	事後:抗菌薬等について復習			1
	14	運動器系疾患に対する薬物療法②	事後:運動器疾患に対する薬物療法①の復習			1
	15	薬物の副作用、薬害と多剤併用症状について理解する	事後:運動器疾患に対する薬物療法②の復習			1
授業方法	講義					
評価方法	筆記試験(100%)					
テキスト	内山靖/他編 『リハベーシック 薬理学・臨床薬理学』 医歯薬出版					
参考文献	『治療薬マニュアル』 医学書院					
履修上の注意事項	テキストの他、配布物も使用する。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床検査・画像診断学		担当教員	川瀬 和大		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	生化学検査、生理検査、画像検査を中心に、それぞれどのような検査なのか、理学療法実施において、どのような留意点があるのかについて説明する。					
達成目標	①臨床で行われる各検査について、どのような検査なのか説明できる。 ②臨床で行われる各検査の結果から、理学療法実施上の留意点について説明できる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	2	血液検査についての概要 理学療法実施上の留意点について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	3	肺機能検査についての概要 理学療法実施上の留意点について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	4	心電図についての概要 理学療法実施上の留意点について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	5	レントゲン、CT、MRIについての概要	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	6	脳画像について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	7	脳画像について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	8	脳画像について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	9	運動器疾患の画像診断について(脊椎)	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	10	運動器疾患の画像診断について(上肢)	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	11	運動器疾患の画像診断について(下肢)	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	12	運動器疾患の画像診断について(下肢)	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	13	呼吸、循環器疾患の画像診断について 理学療法実施上の留意点について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	14	呼吸、循環器疾患の画像診断について 理学療法実施上の留意点について	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
	15	まとめ	事前:教科書の予習 事後:配布資料、教科書を復習		1	
授業方法	講義					
評価方法	終講試験、小テスト					
テキスト	水間正澄/他編 『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた』 南江堂					
参考文献						
履修上の 注意事項	人に説明ができるようになることを目標に、授業に取り組むこと。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅲ	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実務内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	【授業方法】			
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
	4	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	5	【内容】			
	6	医療分野			
	7	福祉分野			
	8	スポーツ分野			
	9	保健分野			
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法研究法Ⅳ	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実務内容					
授業概要	4分野に分かれ、ゼミナール形式で学習を進める。				
達成目標	近年、理学療法を実施するにあたり、エビデンスの構築が求められる。マニュアル通りの理学療法では対処できないことの方が多く、科学的、論理的に考え、治療方針を立てることが重要となる。本科目では4つの専門分野に分かれ、専門的な活動を通して論理的な思考を獲得する。				
授 業 計 画	1	【授業方法】			
	2	1) 教員よりテーマを指示するので、希望の講座を申し出ること。			
	3	2) 諸都合により、希望以外の講座となることもある。			
	4	3) 活動内容は、担当教員の指示を仰ぐこと。			
	5	【内容】			
	6	医療分野			
	7	福祉分野			
	8	スポーツ分野			
	9	保健分野			
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
授業方法	研究活動、フィールドワーク				
評価方法	報告書、出席				
テキスト					
参考文献					
履修上の 注意事項	ゼミナールの進行に関しては各担当教員の指示を仰ぐこと。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	臨床運動学		担当教員	森 憲一、森下 健 塩見 太一郎、高橋 郁美		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	モーターコントロール原著(Anne Shumway-Cook, Marjorie H.Woollacott著)の図書を中心に講義を行い、特に中枢神経疾患に対する臨床を網羅する。途中、モーターコントロールに記載のない、骨格筋に関する基礎医学を臨床の評価・治療に応用する考えを、一部教科書ではなく、スライド配布にて講義する。					
達成目標	これまで学んだ基礎医学(特に基礎運動学)を臨床の実際に活用できる手がかりを得る。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	神経生理学的知識とその臨床応用①	事前:記憶、運動学習、運動技能について復習	1		
	2	神経生理学的知識とその臨床応用②	事前:記憶、運動学習、運動技能について復習	1		
	3	神経生理学的知識とその臨床応用③	事前:正常な姿勢制御、姿勢制御の発達について復習	1		
	4	神経生理学的知識とその臨床応用④	事前:正常な姿勢制御、姿勢制御の発達について復習	1		
	5	骨格筋の基礎知識とその臨床応用①	事前:筋の生理学について総復習	1		
	6	骨格筋の基礎知識とその臨床応用②	事前:筋の生理学について総復習	1		
	7	骨格筋の基礎知識とその臨床応用③	事前:加齢と姿勢制御、姿勢制御の異常について復習	1		
	8	骨格筋の基礎知識とその臨床応用④	事前:姿勢制御に問題を有する患者への臨床的対処法について復習	1		
	9	神経生理学的知識とその臨床応用⑤	事前:正常な移動性における制御について復習	1		
	10	神経生理学的知識とその臨床応用⑥	事前:正常な移動性における制御について復習	1		
	11	神経生理学的知識とその臨床応用⑦	事前:移動性の異常について復習	1		
	12	神経生理学的知識とその臨床応用⑧	事前:移動性障害を有する患者の臨床管理について復習	1		
	13	神経生理学的知識とその臨床応用⑨	事前:正常なリーチ、把握、物品操作について復習	1		
	14	神経生理学的知識とその臨床応用⑩	事前:リーチ、把握、物品操作の障害を有する患者の臨床的管理について復習	1		
	15	神経生理学的知識とその臨床応用⑪	事前:移動性障害を有する患者の臨床管理について復習	1		
授業方法	PowerPointを用いた講義 教科書を用いた講義、実技					
評価方法	ペーパーテスト 100%					
テキスト	配布資料 田中繁/他監訳 『モーターコントロール 研究室から臨床実践へ』 医歯薬出版					
参考文献						
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	理学療法特論 I	担当教員	相星 裕生 清水 浩之		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床				
授業概要	1・2年生で学んだことを、国家試験の出題傾向に合わせ、振り返り、国家試験の概要を知る。				
達成目標	国家試験問題の傾向を理解することができる。 グループワークに積極的に取り組むことができる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション、国家試験とは、 習熟度確認テスト	事前:シラバスの確認 事後:当日の復習	1	
	2	講義1	事前:講義1範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	3	講義1__グループワーク	事前:講義1の復習 事後:当日の復習	1	
	4	講義2	事前:講義2範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	5	講義2__グループワーク	事前:講義2の復習 事後:当日の復習	1	
	6	講義3	事前:講義3範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	7	講義3__グループワーク	事前:講義3の復習 事後:当日の復習	1	
	8	講義4	事前:講義4範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	9	講義4__グループワーク	事前:講義4の復習 事後:当日の復習	1	
	10	講義5	事前:講義5範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	11	講義5__グループワーク	事前:講義5の復習 事後:当日の復習	1	
	12	講義6	事前:講義6範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	13	講義6__グループワーク	事前:講義6の復習 事後:当日の復習	1	
	14	講義7	事前:講義7範囲の予習 事後:当日の復習	1	
	15	講義7__グループワーク	事前:講義7の復習 事後:当日の復習	1	
授業方法	講義、グループワークなど				
評価方法	出席率、講義態度				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
参考文献	なし				
履修上の 注意事項	復習を欠かさず実施すること。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	クリニカルリீズニング I	担当教員	木下 拓真		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)				
授業概要	理学療法は理学療法プロセスに基づき実施する。1・2学年で学習してきた内容を活用・応用させながら、対象者をどのように評価して治療プログラムを立案していくのか？その思考過程について学ぶ講義である。また、3年次評価実習に直結する内容であるため、講義の中で実習の一般目標についても触れていく。				
達成目標	理学療法評価の目的・評価方法・スクリーニング検査について説明できる。理学療法評価を実施する時期について説明できる。理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明でき、情報整理ができる。理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる。理学療法の実施記録について説明できる。 ※診療ガイドラインについて説明できる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	ICFと理学療法プロセス	事後:講義の復習	1	
	2	ボトムアップとトップダウン	事後:講義の復習	1	
	3	動作観察と動作分析①	事後:講義の復習	1	
	4	動作観察と動作分析②	事後:講義の復習	1	
	5	病態把握と臨床推論	事後:講義の復習	1	
	6	基本的理学療法の復習	事後:講義の復習	1	
	7	大腿骨頸部骨折術後の理学療法プロセス①	事後:講義の復習	1	
	8	大腿骨頸部骨折術後の理学療法プロセス②	事後:講義の復習	1	
	9	大腿骨頸部骨折術後の理学療法プロセス③	事後:講義の復習	1	
	10	大腿骨頸部骨折術後の理学療法プロセス④	事後:講義の復習	1	
	11	脳卒中回復期の理学療法プロセス①	事後:講義の復習	1	
	12	脳卒中回復期の理学療法プロセス②	事後:講義の復習	1	
	13	脳卒中回復期の理学療法プロセス③	事後:講義の復習	1	
	14	脳卒中回復期の理学療法プロセス④	事後:講義の復習	1	
	15	まとめ	事後:講義の復習	1	
授業方法	講義・グループワーク				
評価方法	筆記テスト				
テキスト	随時テキスト配布				
参考文献					
履修上の 注意事項	「実際に現場で何を考えるか？」を学ぶ授業になる。2年次評価学・運動療法・物理療法・ADLを常に復習しながら受講するように。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	クリニカルリーズニングⅡ	担当教員	木下 拓真		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)				
授業概要	模擬患者において理学療法プロセスを繰り返し実施する。 評価実習を想定した一般目標に沿って講義を進める。				
達成目標	基本的な理学療法評価を模擬患者で行えるようになる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	オリエンテーション			
	2	模擬症例提示(グループ)			
	3	情報収集			
	4	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	5	検査測定			
	6	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	7	統合と解釈			
	8	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	9	問題点の抽出・目標設定・プログラム立案			
	10	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	11	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	12	グループワーク	事後:グループでディスカッション		2
	13	発表			
	14	発表			
	15	まとめ			
授業方法	グループワーク				
評価方法	レポート・発表				
テキスト	随時テキスト配布				
参考文献					
履修上の 注意事項	PC(PowerPoint)を使用するため、準備のこと。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	義肢学		担当教員	高島 京子		
			実務経験	○		
実務内容	医療系企業勤務(義肢装具士)					
授業概要	欠損した手足に装着する人工の手足である義肢。義足においては単に外観を補うだけのものにとどまらず、動力装置を持たない義足で歩行・走行できる仕組みについて学ぶ。又義手においては、基礎知識から最新技術を駆使した筋電義手までを教授し、実生活の中での義手機能の現状について正しく理解を深める。					
達成目標	装着者とその家族のニーズに合った義肢を選択し適合させるために最低限必要な知識の習得を最終目標とする。①切断者の身体的特性について理解する。②各種ソケットの種類と特徴について説明できる。③義足歩行における異常歩行の観察と原因について理解する。④義肢のアライメントに関する基本的知識の習得。⑤各継手の機構と機能について理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	我が国の四肢切断の疫学	事前:上下肢の解剖学		1	
	2	切断総論 術後のケア、断端管理	事後:講義内容の復習		1	
	3	義肢総論 義肢の概念、構成要素、名称	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	4	下腿義足 構造特性、変遷	事後:講義内容の復習		1	
	5	下腿義足ソケットの種類と特徴	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	6	サイム義足ソケットの種類と特徴	事後:講義内容の復習		1	
	7	下腿義足・サイム義足のアライメント	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	8	大腿義足ソケットの種類と特徴	事後:講義内容の復習		1	
	9	膝義足ソケットの種類と特徴	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	10	大腿義足・膝義足のアライメント	事後:講義内容の復習		1	
	11	股義足ソケットの種類とアライメント	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	12	足部部分義足の種類	事後:講義内容の復習		1	
	13	義手の種類とその設定調整方法	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	14	筋電義手	事後:講義内容の復習		1	
	15	模擬体験大腿義足を用いた実習	事前:異常歩行のチェックアウト復習 事後:講義内容の復習		2	
授業方法	講義(パワーポイント使用)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	高田 治実/監 『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学』 羊土社					
参考文献	川村次郎/他編 『義肢装具学』 医学書院 澤村誠志/著 『切断と義肢』、『義肢学』 医歯薬出版 久保俊一/他編集 『実践装具療法』 金芳堂					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	装具学		担当教員	高島 京子		
			実務経験	○		
実務内容	医療系企業勤務(義肢装具士)					
授業概要	整形外科の保存療法の有効な手段として重要な位置をしめている装具。リハビリテーション計画を進める上で、真に役に立つ装具の基礎知識の習得を目的とする。装具の目的・機能・適応について教授し、講義に加えてギプス包帯を用いた採型実習を行う。					
達成目標	装着者の病態に応じた適切な装具を選択でき、基本的な装着方法や管理方法を理解する。①装具の種類と目的を説明することができる。②装具の構成要素名称、部品の機能と取り付け位置を理解する。③リハビリテーションを行う上での装具の役割を説明できる。④装具が適合しているかどうかのチェックポイントを理解する。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	装具総論 装具の概念、目的、名称、分類	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	2	下肢装具の適合とアライメント、構成要素	事後:講義内容の復習		1	
	3	足継手の種類、制御機構、調整方法	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	4	疾患別装具療法 脳卒中片麻痺の装具	事後:講義内容の復習		1	
	5	同上	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	6	疾患別装具療法 整形外科的装具	事後:講義内容の復習		1	
	7	同上	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	8	頸椎疾患・胸腰椎疾患	事後:講義内容の復習		1	
	9	脊椎側弯症の装具	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	10	末梢神経障害の装具	事後:講義内容の復習		1	
	11	小児疾患の装具	事前:テキストの関連内容の予習		1	
	12	靴型装具	事後:講義内容の復習		1	
	13	実習 ギプス包帯を用いた採型実習	事前:テキストの関連内容の予習		0.5	
	14	同上	事前:講義内容の復習		0.5	
	15	国家試験対策問題演習、総括	事前:総復習 事後:講義内容の復習		2	
授業方法	講義(パワーポイント使用)					
評価方法	筆記試験					
テキスト	高田 治実/監 『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学』 羊土社					
参考文献	川村次郎/他編 『義肢装具学』 医学書院 加倉井周一/編 『装具学』 医歯薬出版 久保俊一/他編集 『実践装具療法』 金芳堂					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動器系理学療法治療学	担当教員	井口 奈保美		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)				
授業概要	「運動器」とは、筋、腱、靭帯、骨、関節、神経(中枢、末梢「運動・感覚」、脈管系などの身体運動にかかわるさまざまな組織・器官によって構成される機能的連合を指す。これら運動器系の障害は日常生活活動の低下ならびに生活の質の低下を引き起こす主要因になりやすい。本講義では、この運動器障害に対しての各種評価で得られた情報を分析し、必要な治療を推察・展開していくための知識を身に付ける。				
達成目標	1. 整形外科で扱う運動器の疾病や外傷の病態、治療が理解できるようになる。 2. 運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法を展開できるようになる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	総論① 運動器とは?	事前:整形外科学、解剖学の復習	1	
	2	総論② 組織修復・治癒過程	事前:整形外科学、生理学の復習 事後:講義内容の復習	1	
	3	各論① 骨折～上肢～	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	4	各論② 骨折～下肢～	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	5	各論③ 変形性股関節症	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	6	各論④ 変形性膝関節症	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	7	各論⑤ 膝・半月板損傷	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	8	各論⑥ 肩関節疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	9	各論⑦ 腰部・脊椎疾患	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	10	各論⑧ 足部・足関節疾患Ⅰ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	11	各論⑨ 足部・足関節疾患Ⅱ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	12	各論⑩ 関節リウマチ	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	13	各論⑪ 運動器不安定症	事前:テキスト関連内容の予習 事後:講義内容の復習	1	
	14	Case study①	事前:これまでの講義の復習 事後:自身の苦手領域の復習	1	
	15	Case study②	事前:これまでの講義の復習 事後:自身の苦手領域の復習	1	
授業方法	講義(グループワーク、実技提示)、Case study				
評価方法	筆記試験(80%)、授業態度(20%)				
テキスト	加藤浩/編 『運動器障害理学療法学』 MEDICAL VIEW				
参考文献	山寄勉/編 『整形外科理学療法の理論と実際』 MEDICAL VIEW 瀧田勇二/著 『リハで読むべき運動器画像』 MEDICAL VIEW				
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	運動器系理学療法治療学実習		担当教員	井口 奈保美		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	臨床現場では、同じ疾患であってもでてくる障害は千差万別である。そのため疾患にとらわれず、目の前の患者様に見合った治療を展開していく必要がある。 本講義では、基本的な治療学の知識を基に、一人ひとりの患者様における治療選択や様々な環境によつての治療方法の選択が行えるようになることを目的とする。安全性を担保した中で、より効果的な治療を行うためにはどうすればよいか?を考え実践していく。					
達成目標	1. 疾患・術式によるリスクを考慮し、適切な治療の選択(実践)ができるようになる。 2. 姿勢・肢位の変化に対しても、目的とした筋群へ適切なアプローチができるようになる。 3. 個別性を理解し、その後の日常生活活動・生活の質に結びつく治療を組み立てることができる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	肩関節に対する治療展開Ⅰ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	2	肩関節に対する治療展開Ⅱ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	3	肩関節まとめ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	4	股関節に対する治療展開Ⅰ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	5	股関節に対する治療展開Ⅱ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	6	股関節に対する治療展開まとめ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	7	膝関節に対する治療展開Ⅰ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	8	膝関節に対する治療展開Ⅱ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	9	膝関節に対する治療展開まとめ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	10	足部・足関節に対する治療展開Ⅰ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	11	足部・足関節に対する治療展開Ⅱ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	12	足部・足関節に対する治療展開まとめ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	13	脊柱に対する治療展開Ⅰ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	14	脊柱に対する治療展開Ⅱ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
	15	脊柱に対する治療展開まとめ	事前:治療学関連内容の復習 事後:講義内容の復習			1
授業方法	実技、グループワーク、Case study					
評価方法	筆記試験(70%)、授業態度(課題への取り組み、発表含む)(30%)					
テキスト	加藤浩/編 『運動器障害理学療法学』 MEDICAL VIEW					
参考文献	山寄勉/編 『整形外科理学療法の理論と実際』 MEDICAL VIEW 瀧田勇二/著 『リハで読むべき運動器画像』 MEDICAL VIEW					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	中枢神経系理学療法治療学		担当教員	相星 裕生		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	脳卒中に対する理学療法において、機能障害、能力障害、また精神障害、それぞれの関連性(因果関係)を分析し、介入することが重要である。そのためには標準化された評価指標(アウトカム)を用いて、効果判定することが非常に重要である。本講義ではできる限り、科学的根拠、エビデンスに基づく、しかも個人の技能レベルに大きく左右されない、いかなれば誰が行おうがある程度の効果を出せる実践的理学療法評価、介入方法を学ぶ。					
達成目標	脳卒中概要、病態、薬剤治療の最先端、理学療法評価、治療知識学習を知り、実践できる知識基盤を構築する。 総合評価にて6割を達成することを目標とする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳卒中 概要	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	2	脳卒中 病態と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	3	脳卒中 病態と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	4	脳卒中 急性期(画像診断 リスク管理 治療)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	5	脳卒中 急性期(画像診断 リスク管理 治療)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	6	脳卒中 回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	7	脳卒中 回復期(画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	8	脳卒中 回復期/画像診断、EBM、装具療法、筋電図評価)	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	9	痙縮に対するリハビリテーション	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	10	痙縮に対するリハビリテーション	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	11	高次機能障害に対する評価と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	12	高次機能障害に対する評価と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	13	高次機能障害に対する評価と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	14	高次機能障害に対する評価と治療	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
	15	脳卒中 歩行再建における考え方 GJC	事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習		1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験(100%)					
テキスト	潮見泰藏/編 『脳卒中に対する標準的理学療法介入』 文光堂					
参考文献	テーマに沿った総合リハビリテーションジャーナル、理学療法ジャーナル等					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	中枢神経系理学療法治療学実習		担当教員	相星 裕生		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	中枢神経系理学療法治療学に基づく実践的な評価や治療、その他先端機器の使用方法を体験、学習する。					
達成目標	脳卒中概要、病態、薬剤治療の最先端、理学療法評価、治療方法を実践的に学ぶ。 総合評価にて6割を達成することを目標とする。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳卒中動作観察、分析 (歩行 分類 筋電図評価 GJC)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	2	脳卒中動作観察、分析(筋電図評価実技)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	3	ポジショニング		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	4	装具選定(治療用装具、生活用装具,GJC)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	5	装具療法 短下肢 長下肢 (SHB ダブルクレンザック、KAFO ゲイトイノベーション)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	6	装具療法 短下肢 長下肢 (SHB ダブルクレンザック、KAFO ゲイトイノベーション)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	7	体幹機能(FIM SIAS,FACTTCTとの関連)とトレーニング		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	8	機能評価と予後予測		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	9	低周波治療器を使用した理学療法 (亜脱臼、手指、足関節)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	10	低周波治療器を使用した理学療法 (亜脱臼、手指、足関節)		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	11	症例検討1 症例見学		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	12	症例検討1 症例見学		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	13	症例検討2 GJC		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	14	症例検討2 GJC		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
	15	先端機器のリハビリテーション		事前:テキストの関連内容の予習 事後:検査内容の復習	1	
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験(50%) 実技試験(50%)					
テキスト	潮見泰藏/編 『脳卒中に対する標準的理学療法介入』 文光堂					
参考文献	テーマに沿った総合リハビリテーションジャーナル、理学療法ジャーナル等					
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	小児系理学療法治療学	担当教員	上杉 雅之		
		実務経験	○		
実務内容	療育園勤務(理学療法士)				
授業概要	小児理学療法は単にこどもの障害に対する治療だけにとどまらず、それを支援する保護者をはじめとする支援者への指導等も含めて支援することが重要である。そして、対象疾患の概略、障害像、問題点などについて理解を深め評価・治療を行うことができる。				
達成目標	①障害児への理学療法を実施できる。 ②脳性麻痺や小児整形疾患などの各小児疾患について理解する。 ③障害児への理学療法の評価・治療について学習する。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脳性麻痺の概論	事前:小児理学療法の関連内容の復習 事後:脳性麻痺の復習	1	
	2	脳性麻痺(SD)	事前:脳性麻痺の復習 事後:痙直型両麻痺の復習	1	
	3	脳性麻痺(SQ)	事前:痙直型両麻痺の復習 事後:痙直型四肢麻痺の復習	1	
	4	脳性麻痺(SH)	事前:痙直型両麻痺の復習 事後:痙直型片麻痺の復習	1	
	5	脳性麻痺(AT)	事前:痙直型片麻痺の復習 事後:アテトーゼの復習	1	
	6	重症児	事前:アテトーゼの復習 事後:重症児の復習	1	
	7	小児整形(二分脊椎)	事前:重症児の復習 事後:二分脊椎の復習	1	
	8	小児整形(ペルテス病等)	事前:二分脊椎の復習 事後:ペルテス病等の復習	1	
	9	筋ジス	事前:ペルテス病等の復習 事後:筋ジスの復習	1	
	10	ダウン症	事前:筋ジスの復習 事後:ダウン症の復習	1	
	11	NICU	事前:ダウン症の復習 事後:NICUの復習	1	
	12	発達障害	事前:NICUの復習 事後:発達障害の復習	1	
	13	評価	事前:発達障害の復習 事後:障害児の評価の復習	1	
	14	評価	事前:障害児の評価の復習 事後:障害児の評価の復習	1	
	15	地域リハ・まとめ	事前:障害児の評価の復習 事後:地域リハの復習	1	
授業方法	講義を中心に行うが、できるだけ視聴覚資料を用いて理解を図るようにする。				
評価方法	授業態度(10%)と試験(90%)を総合的に判定して行う。				
テキスト	上杉雅之/監 『イラストでわかる小児理学療法』 医歯薬出版				
参考文献	上杉雅之/他監訳 『脳性麻痺のクリニカルリーズニングアプローチ』 医歯薬出版 他				
履修上の 注意事項	障害児へのアプローチは、単に当事者だけにとどまらず母親を中心とした対人援助であることを心がける。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	呼吸器系理学療法治療学		担当教員	伊東 憂郁、永井 佑典 荒瀬 友岳		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	呼吸器疾患の病態を知る。 画像、血液ガスデータを理解し、評価力を高め、予後予測を行う。					
達成目標	採血データを理解する。 画像所見を理解する。 採血データ、画像所見を基に全身状態の評価ができるようになる。					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	概論 解剖 生理		事前:呼吸器の解剖・生理		1
	2			事前:呼吸器の解剖・生理 事後:呼吸器の解剖・生理		1
	3	病態を知る 血液ガス レントゲン、CT		事前:検査値の読み方を熟読		1
	4	生化学 呼吸機能		事前:検査値の読み方を熟読 事後:授業内容の復習		1
	5	人工呼吸器 フィジカルアセスメント		事後:授業内容の復習		1
	6			事後:授業内容の復習		1
	7			事前:病気がみえる、画像所見欄の予習		1
	8			事後:画像、採血データの読み方の復習		1
	9	運動療法		事後:労作時の呼吸・循環動態		1
	10	在宅酸素療法、栄養		事後:酸素、呼吸器患者の栄養について		1
	11	実技		事後:授業内容の復習		1
	12	症例検討		事後:授業内容の復習		1
	13	症例検討		事後:授業内容の復習		1
	14	症例検討		事後:授業内容の復習		1
	15	まとめ		事後:授業内容の復習		1
授業方法	講義、実技					
評価方法	筆記試験(100%、論述+記入)					
テキスト	医療情報科学研究所/編 『病気がみえるvol.4 呼吸器』 MEDIC MEDIA					
参考文献						
履修上の 注意事項	実技の時は、ジャージ・Tシャツ着用。					

開講時期	3年生 昼間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	代謝循環器系理学療法治療学		担当教員	秋山 智彦		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)					
授業概要	今後益々高齢化社会が進行していく中で、増加傾向の循環器領域・代謝領域でのPTの意義、役割、基本的知識などを学ぶ。					
達成目標	循環器領域・代謝領域でのPTの意義、役割、基本的知識などを理解する。					
			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	はじめに・オリエンテーション 総論	事前:基礎科目の復習			1
	2	解剖学・生理学の確認	事後:講義内容の復習			1
	3	定義・疫学・循環器疾患総論	事後:講義内容の復習			1
	4	心臓リハビリテーションの概要	事後:講義内容の復習			1
	5	虚血性心疾患の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	6	心電図の診かた	事後:講義内容の復習			1
	7	心不全の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	8	大動脈疾患の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	9	末梢動脈疾患の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	10	運動処方について	事後:講義内容の復習			1
	11	静脈疾患の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	12	代謝障害(糖尿病)合併症について	事後:講義内容の復習			1
	13	腎機能障害の理学療法	事後:講義内容の復習			1
	14	運動処方について	事後:講義内容の復習			1
	15	ケーススタディ(疾患毎に)	事後:講義内容の復習			1
授業方法	講義が中心					
評価方法	筆記試験(100%)					
テキスト	配布資料が中心					
参考文献	高橋哲也/編 『ビジュアルレクチャー内部障害系理学療法学』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項	基礎となる解剖学・生理学・内科学・運動生理学を復習しておくこと。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	神経・筋疾患系理学療法治療学		担当教員	久我 宜正、喜多 頼広 山崎 聖也、荻野 悟		
			実務経験			
実務内容						
授業概要	代表的な神経筋疾患(パーキンソン病、パーキンソニズム、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、皮膚筋炎、多発性筋炎、大脳皮質基底核変性症、筋ジストロフィー、多発性硬化症、ギランバレー症候群など)に関する基礎および臨床の知見を紹介し、座学を中心とし、実際の症例の動画を教材として、実技やグループディスカッションを行う。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経筋疾患患者の病態を理解する。 2. 神経筋疾患患者の障害構造理解し、自分で整理できる状態になる。 3. 神経筋疾患患者に必要な理学療法評価を把握し、実際に評価できるようになる。 4. 神経筋疾患患者に対する理学療法介入のエビデンスを知り、介入方法を選択できるようになる。 5. 神経筋疾患患者に対する理学療法士として関わり方を理解する。 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	神経筋疾患総論	事前・事後: 脳や神経の解剖や役割を復習する。		1	
	2	ニューロリハビリテーション総論	事前・事後: 脳や神経の解剖や役割を復習する。		1	
	3	パーキンソン病の病態理解	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の病態理解の復習		1	
	4	パーキンソン病の理学療法評価	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の理学療法評価の復習		1	
	5	パーキンソン病の理学療法介入	事前: パーキンソン病についての復習 事後: パーキンソン病の理学療法介入の復習		1	
	6	パーキンソニズム病の理学療法	事前・事後: パーキンソニズムの復習		1	
	7	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	事前・事後: 脊髄小脳変性症の復習		1	
	8	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法	事前・事後: 脊髄小脳変性症の復習		1	
	9	筋萎縮性側索硬化症の理学療法	事前・事後: 筋萎縮性側索硬化症の復習		1	
	10	筋萎縮委縮性側索硬化症の理学療法	事前・事後: 筋萎縮性側索硬化症の復習		1	
	11	皮膚筋炎・多発性筋炎の理学療法	事前・事後: 皮膚筋炎、多発性筋炎の復習		1	
	12	筋ジストロフィーの理学療法	事前・事後: 筋ジストロフィーの復習		1	
	13	多発性硬化症の理学療法	事前・事後: 多発性硬化症の復習		1	
	14	ギランバレー症候群の理学療法	事前・事後: ギランバレー症候群の復習		1	
	15	まとめ	事前・事後: 神経筋疾患全般の要点を整理し復習		1	
授業方法	講義を中心とし、グループ討議を取り入れる。					
評価方法	筆記テスト					
テキスト	配布資料(スライド形式)					
参考文献	小森哲夫/監 『神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ』 メジカルビュー社 丸山仁司/編 『神経障害系理学療法』 医歯薬出版 Janet Carr/他著 『ニューロロジカルリハビリテーション』 医歯薬出版					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	脊髄損傷理学療法治療学	担当教員	羽田 晋也		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床				
授業概要	脊髄損傷の病態と評価、理学療法の実際について学ぶ。 脊髄損傷者の日常生活動作(ADL)は、テキストに加え、動画を用いて解説する。 脊髄損傷の評価と理学療法の実際は、講義と実技をとおして学ぶ。				
達成目標	脊髄損傷の病態・評価・理学療法について理解する。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	脊髄損傷の病態① (完全麻痺と不全麻痺、外傷性脊髄損傷の疫学)	事後:授業の復習	1	
	2	脊髄損傷の病態② (脊髄横断面における機能局在、傷害領域と麻痺型)	事後:授業の復習	1	
	3	脊髄損傷の病態③ (随伴症状)	事後:授業の復習	1	
	4	脊髄損傷の評価① (ASIA/ISNCSCIによる神経学的評価)	事後:授業の復習	1	
	5	脊髄損傷の評価② (ザンコリー分類、ADLの目標設定)	事後:授業の復習	1	
	6	脊髄損傷の評価③ (座位バランス、筋緊張、関節可動域)	事後:授業の復習	1	
	7	脊髄損傷の評価④ (予後予測、ADLの評価)	事後:授業の復習	1	
	8	急性期における理学療法の視点	事後:授業の復習	1	
	9	回復期における理学療法の視点① (動ける身体づくり)	事後:授業の復習	1	
	10	回復期における理学療法の視点② (起居・移乗動作トレーニング)	事後:授業の復習	1	
	11	回復期における理学療法の視点③ (立位・歩行トレーニング)	事後:授業の復習	1	
	12	脊髄損傷に対する理学療法の実際	事後:授業の復習	1	
	13	脊髄損傷者の使用する車いす①(講義)	事後:授業の復習	1	
	14	脊髄損傷者の使用する車いす②(実技)	事後:授業の復習	1	
	15	脊髄損傷の病態・評価・理学療法	事後:授業の復習	1	
授業方法	講義、実技				
評価方法	授業レポート(50%) 筆記試験(50%)				
テキスト	石川 朗/編 『15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ』 中山書店				
参考文献	岩崎洋/編 『脊髄損傷理学療法マニュアル』 文光堂 武田功/編 『PTマニュアル脊髄損傷の理学療法』 医歯薬出版				
履修上の 注意事項	実技の際には、動きやすい服装で臨むこと。スカート、ジーンズは厳禁です。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	老年期理学療法治療学	担当教員	市田 修一		
		実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床				
授業概要	わが国では、急速に高齢化が進行しており、理学療法士として高齢者医療や福祉に携わることが多い。本講義では、高齢者の特徴を知り、評価や理学療法について学習していく。				
達成目標	高齢者の特徴が説明できる。 高齢者の理学療法評価や状態に応じた理学療法について説明ができる。 また、生活動作能力向上のために身体面、精神面のみではなく、環境面における調整についても説明できる。				
	学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	高齢者の特徴 総論 定義	事後:教科書・配布資料復習		1
	2	高齢者の特徴 各論	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	3	高齢者の特徴 各論	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	4	高齢者の特徴 各論	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	5	加齢に伴う変化	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	6	加齢に伴う変化	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	7	高齢者の機能評価①	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	8	高齢者の機能評価②	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	9	高齢者の機能評価③	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	10	高齢者に対する理学療法① エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	11	高齢者に対する理学療法② エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	12	高齢者に対する理学療法③ エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	13	高齢者に対する理学療法④ エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	14	高齢者に対する理学療法⑤ エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
	15	高齢者に対する理学療法⑥ エビデンス	事前:教科書予習 事後:教科書・配布資料復習		1
授業方法	パワーポイント、プリントを使用しての講義				
評価方法	筆記試験、出席状況、授業態度等を総合して評価する。				
テキスト	池添冬芽/編 『高齢者理学療法学』 MEDICAL VIEW				
参考文献	細田多穂/監 『高齢者理学療法学テキスト』 南江堂 宮越浩一/編 『高齢者リハビリテーション実践マニュアル』 MEDICAL VIEW				
履修上の 注意事項	日々の勉学が必要である。積極的に授業に参加し学習すること。授業時に次回の予習内容を伝える。他者の迷惑となるような行為は行わないこと。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	
科目名	理学療法治療学特講 I		担当教員	能登 洋平			
			実務経験	○			
実務内容	診療所勤務(理学療法士)						
授業概要	理学療法士が対応するのは疾患やその症状である以前に「人」である。理学療法の提供による効果を最大限に高めるためには、セラピストと患者間に存在する様々な事象をマネジメントする力が必要である。本講義ではグループワークを中心に学生自らが問題解決できる能力を養う。						
達成目標	治療に至る前段階に存在する様々な事象に対し、自らがその解決策を見出す力を養う。						
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)			
授 業 計 画	1	授業オリエンテーション					
	2	3	感染対策	事前: 標準的感染対策について 事後: ワーク後のまとめ復習	2		
	4						
	5	4 情報管理		事前: PTが取り扱う情報について 事後: ワーク後のまとめ復習	2		
	6	7	6 ハラスメント				事前: 一般的なハラスメントについて 事後: ワーク後のまとめ復習
	8			9	8 クレーム対応	事前: クレームに対する一般的な方法 事後: ワーク後のまとめ復習	
	10	11	10 家族対応				事前: 家族-PT間でとるべきコミュニケーションを想起しておいてください 事後: ワーク後のまとめ
	12			13	12 多職種連携	事前: リハビリテーション実務における他職種連携の必要性について 事後: ワーク後のまとめ復習	
	14	15	14 カルテ 実施計画書 実施報告書				事前: カルテ、実施計画書、実施報告書について記載すべきこと 事後: ワーク後のまとめ
	15						
	授業方法	提示されたテーマについてグループワークを進め、自らの意見や他者の意見を取りまとめる。また、グループでまとめた意見を発表する。					
	評価方法	授業態度、レポート提出					
	テキスト	授業資料を配布します					
	参考文献	奈良勲/編著 『理学療法管理学』 医師薬出版 金谷さとみ/他編 『リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック』 MEDICAL VIEW					
	履修上の 注意事項	グループワークを実施します。積極的な議論参加を望みます。					

開講時期	3年生 昼・夜間部 前期	分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	福祉住環境論	担当教員	谷口 昌宏		
		実務経験	○		
実務内容	介護、福祉系、企業勤務				
授業概要	障がい者・高齢者にとって生活しやすい住環境とはどういうものかと生活環境整備における理学療法士の役割について学ぶ。そのために必要な諸制度と住宅改修の基礎知識、福祉用具の選び方・使い方について学ぶ。				
達成目標	介護保険制度を主とする諸制度について理解する。身体状況に応じた適切な生活環境整備(福祉用具・住宅改修)について、ご本人・介護者・他職種にプランの提示も含めた助言ができるようになる。				
		学習内容等		事前・事後推奨課題/目安時間(時間)	
授 業 計 画	1	福祉住環境論総論と理学療法士の役割 (1)生活環境学の考え方	事前:テキスト第1章の予習	1	
	2	(2)生活環境の特徴と課題 (3)生活環境整備に関する法的制度	事前:テキスト第2・3章の予習、介護保険制度について調べておく	1	
	3	(4)生活環境整備の進め方 (5)(6)生活環境整備の基本①②	事前:テキスト第4・5・6章の予習	1	
	4	(7)玄関・アプローチ (8)廊下・階段 (9)トイレ (10)浴室・脱衣室の環境整備	事前:テキスト第7・8・9・10章の予習	1	
	5	(11)台所・食堂 (12)居室・寝室の環境整備 (13)(14)疾患別環境整備	事前:テキスト第11・12・13・14章の予習	1	
	6	福祉用具のまとめ	事後:福祉用具の復習	2	
	7	(15)建築図面の書き方・読み方	事前:テキスト第15章の予習	1	
	8	住宅改修のまとめ	事後:住宅改修の復習	2	
	9	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)			
	10	福祉用具展示場の見学(エイジレスC.)			
	11	実技演習「福祉用具を活用した介助実技」			
	12	グループ演習「住宅改修案の検討」のための事例の提示(DVD・家屋図面)	事後:次回の演習のために事例(経過と家屋図面)をよく読んでおく	1	
	13	グループ演習①「住宅改修案の検討」	事前:各人で改修案を考えておく	2	
	14	グループ演習②「住宅改修案の検討」			
	15	住宅改修案のグループ発表	事前:発表できるように準備しておく	1	
授業方法	講義・グループ演習				
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表				
テキスト	細田多穂/編 『生活環境学テキスト』 南江堂				
参考文献	『初めて学ぶ福祉住環境』 市ヶ谷出版社 『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』 東京商工会議所				
履修上の 注意事項	・福祉用具展示場見学はATCエイジレスセンター(大阪市住之江区南港北)で行う。 ・「福祉用具を活用した介助実技」は実技ができる服装で出席(白衣でなくてよい)。				

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)
科目名	地域理学療法学		担当教員	高橋 美和		
			実務経験	○		
実務内容	病院勤務(理学療法士)として臨床					
授業概要	地域における理学療法の展開と、セラピストに求められる専門性について、講義形式・グループワークで学習する。					
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の実情と諸制度の変遷がわかる。 ・地域における理学療法士の役割がわかる。 ・地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割がわかる。 ・予防から終末期まで各領域におけるセラピストの専門性が理解できる。 					
	学習内容等			事前・事後推奨課題/目安時間(時間)		
授 業 計 画	1	地域における理学療法士の役割と制度	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	2	介護保険制度	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	3	地域理学療法に求められる医学的管理	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	4	地域理学療法における理学療法評価	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	5	地域理学療法の実際(訪問理学療法)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	6	地域理学療法の実際(通所・入所系サービス)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	7	症例検討	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	8	疾患別にみる地域理学療法(中枢神経疾患)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	9	疾患別にみる地域理学療法(運動器疾患)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	10	疾患別にみる地域理学療法(循環器疾患)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	11	症例検討	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	12	疾患別にみる地域理学療法(がん)	事前:該当頁の確認 事後:学習の狙いを確認、復習			1
	13	小児領域の地域理学療法	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく			1
	14	生活環境の整備	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく			1
	15	理学療法士による街づくり	検討症例について各グループ発表での内容を検討・要点を再度復習しておく			1
授業方法	講義形式、グループワーク					
評価方法	出席率、課題・発表、筆記試験					
テキスト	牧迫飛雄馬/他編著 『最新理学療法学講座 地域理学療法学』 医歯薬出版					
参考文献	牧田光代/他編 『標準理学療法学 地域理学療法学』 医学書院					
履修上の 注意事項						

開講時期	3年生 昼・夜間部 後期	分野	専門	単位(時間)	5(225)
科目名	臨床評価実習	担当教員	専任教員		
		実務経験			
実務内容					
授業概要	医療提供施設1ヶ所(理学療法業務)で5週間の実習を行う。				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・診療記録等からの間接的情報収集や対象者への直接的情報収集(検査・測定等)を通じて、対象者の状態等に関する評価を実施できる。 ・診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で、様々な疾患・状態の対象者に対して基本的な検査・測定等を適切に実施できる。 ・得られた情報から、障害像を考え、課題解決に向けた仮説を立てる過程を学ぶ。 ・チェックリスト内の項目について可能な限り協同参加、実施をし、その意義・目的について学ぶ。 				
授 業 計 画	実習前OSCE 実習前オリエンテーション 実習前レポートの作成 各自の行動目標を作成する。 実習内容(下記内容を理学療法評価において、可能な限り協同参加・実施する) 理学療法の対象者との関係性構築 チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割 理学療法プロセスの理解 対象者に対する理学療法実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) リスク管理について 2) 理学療法評価について 3) 理学療法治療技術について 				
	実習日誌などで記録と報告を行う。 感想文の作成 実習後HR 実習報告書の作成 実習前レポートをもとに、実施した内容、その結果、課題が残ればその内容などをまとめる。 実習後HR 実習後OSCE				
授業方法					
評価方法	実習指導者による評価や提出課題などにもとづき行う。				
テキスト	なし				
参考文献					
履修上の 注意事項	9割以上の出席が必要。				